

## 日本一高い木造建築



京都の玄関口、京都駅の目の前にそびえる京都タワーは、京都のシンボルタワーとしての役割をいかに発揮しています。京都旅行に来られた方、朝な夕なの方など、京都駅の前にそびえる京都タワーを見て何かしらほっとしたような安心気分になるのではないのでしょうか。京都タワーがまだなかった時代の京都には何かシンボリックなものはあったのでしょうか。あります。あります。京都に平安京という都が出来た時には、東寺の五重塔、さらには西寺の五重塔がそびえたち、遠く旅してきた人々はこの塔を目印にしていたのではないのでしょうか。当時の建物は平屋建てが多く、この五重塔は驚異的に高い物体に見えたのではないのでしょうか。さらに驚くべきは、京都にはさらに高い建物が存在していたのです。2016年7月、金閣寺で塔の屋根の上を飾る九輪の断片が見つかり、大ニュースになりました。推定ではその直径は2mを超えるとみられます。現存する日本で最も高い東寺五重塔の九輪の一番大きい部分の直径が約1.6mですからそれを上回る大きさです。とすれば、この断片は足利義満が建設をはじめながら、完成直前に焼失した北山大塔のものである可能性があるそうです。足利義満はこの北山大塔の前、応永6年（1399年）に相国寺に七重の塔を建立していました。この塔は高さ360尺（約109m）といわれ、日本建築史上最も高い木造の塔です。北山大塔はこの相国寺七重の塔が応永10年（1403年）に焼失した後に場所を北山殿に移し替えて再建されたものだそうです。

### {相国寺七重大塔}

日本一の木造建築物であった相国寺七重大塔が建っていた場所は現在の京都御所の北側同志社女子大の東側あたりで現在の地名もその名残であると思われる「塔之段町」となっています。応永6年（1399年）三代将軍足利義満の重臣の年であり、また、父義詮の33回忌にあたる年に高さ36丈（約109m）の七重の塔が完成したのです。七重の塔の完成に際しては、盛大な式典が行われ多くの貴族や僧侶が集まりました。足利義満は最高責任者として式典を取り仕切り仏の供養のために花をまく「散華」を行ったそうです。この散華は強風に乗って京都の市中にまで飛んで行ったということです。時の関白一条経嗣の「相国寺塔供養記」によると応永6年（1399）9月15日に行われた「相国寺千僧供養」をもって供養会が行われています。当時の義満が天皇よりも財力、権力を持っていることを世の中に示す目的で京都御所の北側にある相国寺内に建立したということでしょうか。しかしこの塔も応永10年（1403年）に落雷によって炎上し、その後北山に移して再建するが応永23年（1406年）に炎上します。その後七重大塔は相国寺東南の旧知に戻され再建され天明2年（1470年）3度目の灰塵に帰するまで京のシンボルとして君臨したそうです。塔からの眺めは素晴らしく瑞溪鳳凰（相国寺第42世）が「塔上眺望」と題する詩にそのさまを詠んでいます。また当地を鳥瞰した「洛中洛外図屏風」は、この七重の塔からの眺望を基にして描かれたと云われています。





しょうこくじひちじゅうのとうふくげん

## 相国寺七重塔復元CG

ふくげんこうしょう とみしまよしゆき さくせい たけかわこうへい

(復元考証：富島義幸 CG作製 竹川浩平)